

市バス・地下鉄事業のあらまし

(令和8年4月)



京都市交通局

目 次

1	事業概要	1
	(1) 自動車運送事業 (市バス)	1
	(2) 高速鉄道事業 (地下鉄)	5
2	直近の経営状況	10
	(1) 1日当たりのお客様数の推移	10
	(2) 令和7年度の決算見込み	10
3	令和8年度予算	11
	(1) 予算編成の基本方針	11
	(2) 予算の概要	14
	(3) 重要課題への対応	16
	(4) 予算の重点項目	20
	(5) 市バス・地下鉄の財政状況	26
4	附帯事業	32
	(1) 駅ナカビジネス収入の推移	32
	(2) 広告料収入の推移	32
5	職員数	33
6	機 構	34

1 事業概要

(1) 自動車運送事業（市バス）

ア 営業設備（令和8年4月1日現在）

(ア) 路線

	令和8年度（A）	令和7年度（B）	比較（A－B）
営業路線キロ	321.93km	322.33km	▲0.4km
バス専用レーン	86.6km	86.6km	－
停留所間平均距離	410m	410m	－
運転系統数	84系統	84系統	－

(イ) バス停留所及び設備

	令和8年度（A）	令和7年度（B）	比較（A－B）
停留所数	713か所	713か所	－
停留所標識数	1,642か所	1,642か所	－
上 屋	675か所	673か所	2か所
ベンチ	927か所	918か所	9か所
バス接近表示器	551か所	551か所	－
照 明	1,192か所	1,192か所	－
バスの駅	67か所	66か所	1か所

(ウ) 車 両

	令和8年度 （A）	令和7年度 （B）	比 較 （A－B）
車 両 数	810両	810両	－
うち低床車（バリアフリー対応）	810両(100%)	810両(100%)	－
うちノンステップバス	789両(97%)	781両(96%)	8両
うちワンステップバス	21両(3%)	29両(4%)	▲8両
うちアイドリングストップバス	808両(100%)	810両(100%)	▲2両
うち電気バス	2両(0.2%)	－	2両
うちハイブリッドバス	59両(7%)	59両(7%)	－
うちラッシュ型車両	515両(64%)	460両(57%)	55両

注（ ）内は、車両数に占める割合を示しています。

(工) 事業所及び案内所等

○ 営業所及び出張所

名 称	所在地	敷地面積 (㎡)	所属車両数(両)	
				うち委託
西賀茂営業所	北区西賀茂山ノ森町	9,963.86	109	—
烏丸営業所	北区小山北上総町	(注) 15,251.40	88	—
錦林出張所 (全部を管理の受委託)	左京区浄土寺真如町	5,058.34	45	45
九条営業所	南区東九条下殿田町	19,580.42	179	—
梅津営業所 (一部を管理の受委託)	右京区西院笠目町	16,925.71	172	58
洛西営業所 (全部を管理の受委託)	西京区大枝東新林町	14,115.81	102	102
横大路営業所 (全部を管理の受委託)	伏見区横大路橋本	10,261.91	115	115
合 計	—	—	810	320

注 烏丸営業所の敷地面積は、バスターミナル部分を含みます。

○ 車両工場

名 称	所在地	敷地
自動車整備工場	伏見区竹田西段川原町	地下鉄竹田車両基地に含みます。

○ 市バス・地下鉄案内所

市バス・地下鉄の運行に係る案内（ダイヤ、運賃、系統、停留所位置等）やカード乗車券の発売等を行っています。

名 称	所在地	案内時間等
交通局	地下鉄太秦天神川駅地上 (SANSARight京1階)	9時00分～17時00分 (年中無休)
京都駅前	JR京都駅中央口前 バス総合案内所内	7時30分～19時30分 (年中無休)
コトチカ京都	地下鉄京都駅中央1改札口横	
北大路	北大路バスターミナル内 (地下鉄北大路駅隣接)	
烏丸御池駅	地下鉄烏丸御池構内 (改札外)	

○ 市バス・地下鉄定期券発売所

発売所	営業日	営業時間
北大路駅	月～金曜日 土・日・祝日	7:30～19:30 9:00～17:00
四条駅		
京都駅前		
山科駅		
三条京阪駅		
竹田駅	月～水・金～土曜日 (木・日・祝日は休み)	12:00～19:30
六地藏駅		
二条駅	月～土曜日 日・祝日	12:00～19:30 9:00～17:00
J R 桂川駅前	月～金曜日 土・日・祝日	12:00～19:00 11:00～17:30 ※いずれも、14:30～15:30は除く
梅津営業所	月末5日～月始5日	うち月～土曜日 12:00～19:30 うち日・祝日 9:00～17:00
西賀茂営業所	月末2日～月始1日	
横大路営業所		

注1 年末年始（12月31日～1月3日）は全ての発売所が休み

注2 地下鉄のICOCA定期券（通勤・継続）については、地下鉄全駅の自動券売機で購入可能です。

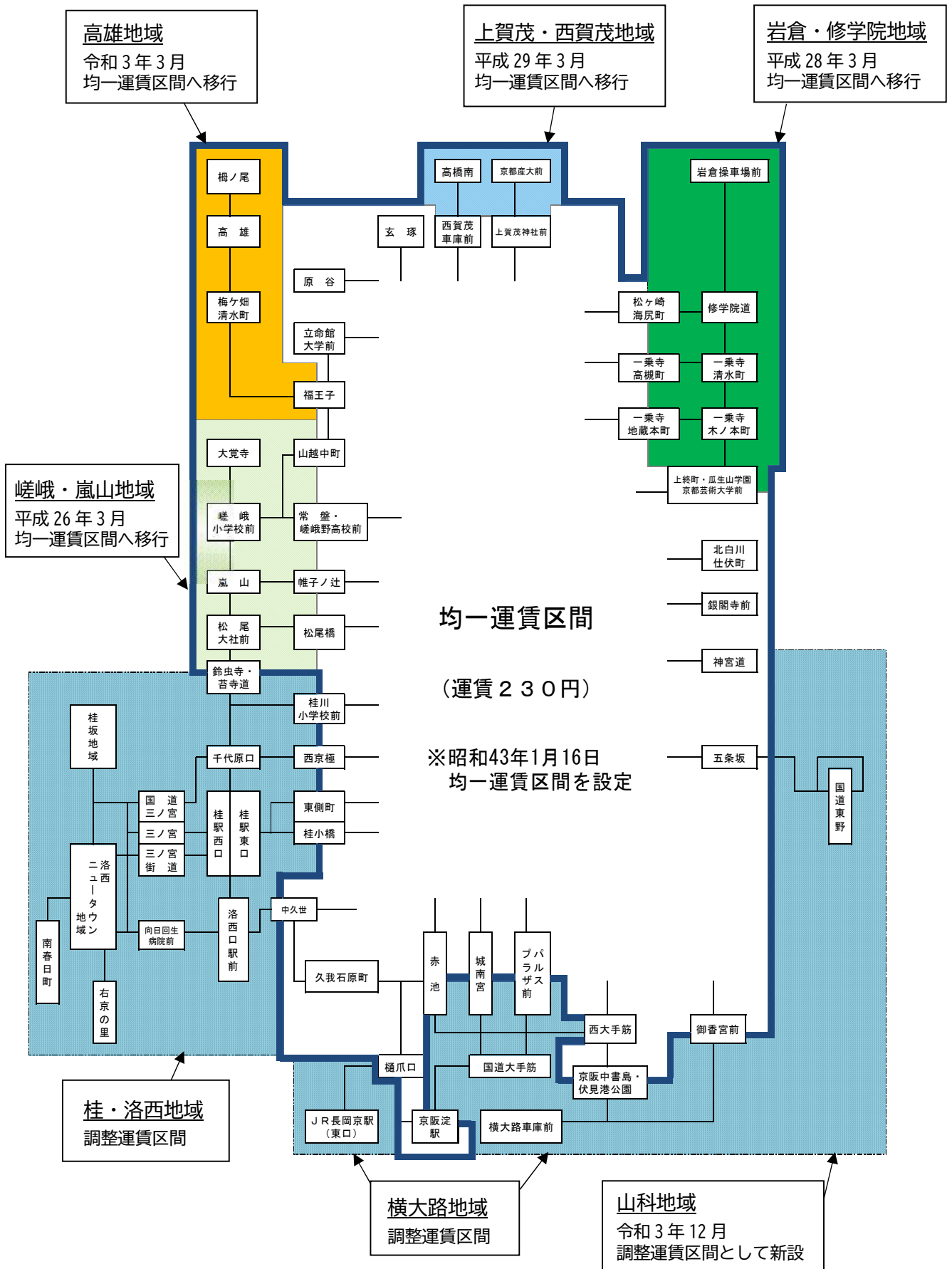


市バス・地下鉄案内所
(コトチカ京都)

イ 市バス運賃

・均一運賃区間…
 大人 230 円 小児 120 円

・調整運賃区間 (均一区間外)
 大人 180~370 円 小児 90~190 円



(2) 高速鉄道事業（地下鉄）

ア 営業設備（令和8年4月1日現在）

(ア) 路線

区分	烏丸線	東西線
営業路線キロ	13.7 km	17.5 km
駅数	15 駅	17 駅
駅名	国際会館、松ヶ崎、北山、北大路、鞍馬口、今出川、丸太町、烏丸御池、四条、五条、京都、九条、十条、くいな橋、竹田	六地藏、石田、醍醐、小野、柳辻、東野、山科、御陵、蹴上、東山、三条京阪、京都市役所前、烏丸御池、二条城前、二条、西大路御池、太秦天神川
駅間平均距離	0.98 km	1.09 km
運転回数	国際会館～竹田（平日）166 往復	六地藏～太秦天神川（平日）134 往復 御陵～太秦天神川（平日）48 往復 御陵～京都市役所前（平日）10 往復
路線構造	地下構造(竹田付近は一部地上)	地下構造
軌間	1.435m	1.435m
集電方式	架空線方式、直流 1,500 ボルト	架空線方式、直流 1,500 ボルト
建設費	3,053 億円	5,461 億円

(イ) 車両

■ 烏丸線：20編成（1編成6両）、120両

※供用開始（昭和56年5月）から40年以上経過する9編成を

令和3年度から順次更新し、令和7年度に更新完了

※現在、烏丸線新型車両（20系）は9編成が運行中

■ 東西線：17編成（1編成6両）、102両

烏丸線新型車両（20系）



(主な特徴)

- ・外観・内装デザインに京都の伝統産業素材・技法を活用
- ・車体構造の強化等により安全性が向上
- ・省エネ化による走行用消費電力削減（現行車両比約30%減）
- ・床面とホームの段差を低減し、車椅子スペースを充実するなど、バリアフリー化を推進
- ・車両全体について廃棄車両から一部の装置を再利用するなど、できる限り費用を抑える工夫を実施

【令和4年10月に「グッドデザイン賞」、
令和5年5月に鉄道友の会「ローレル賞」をW受賞！】

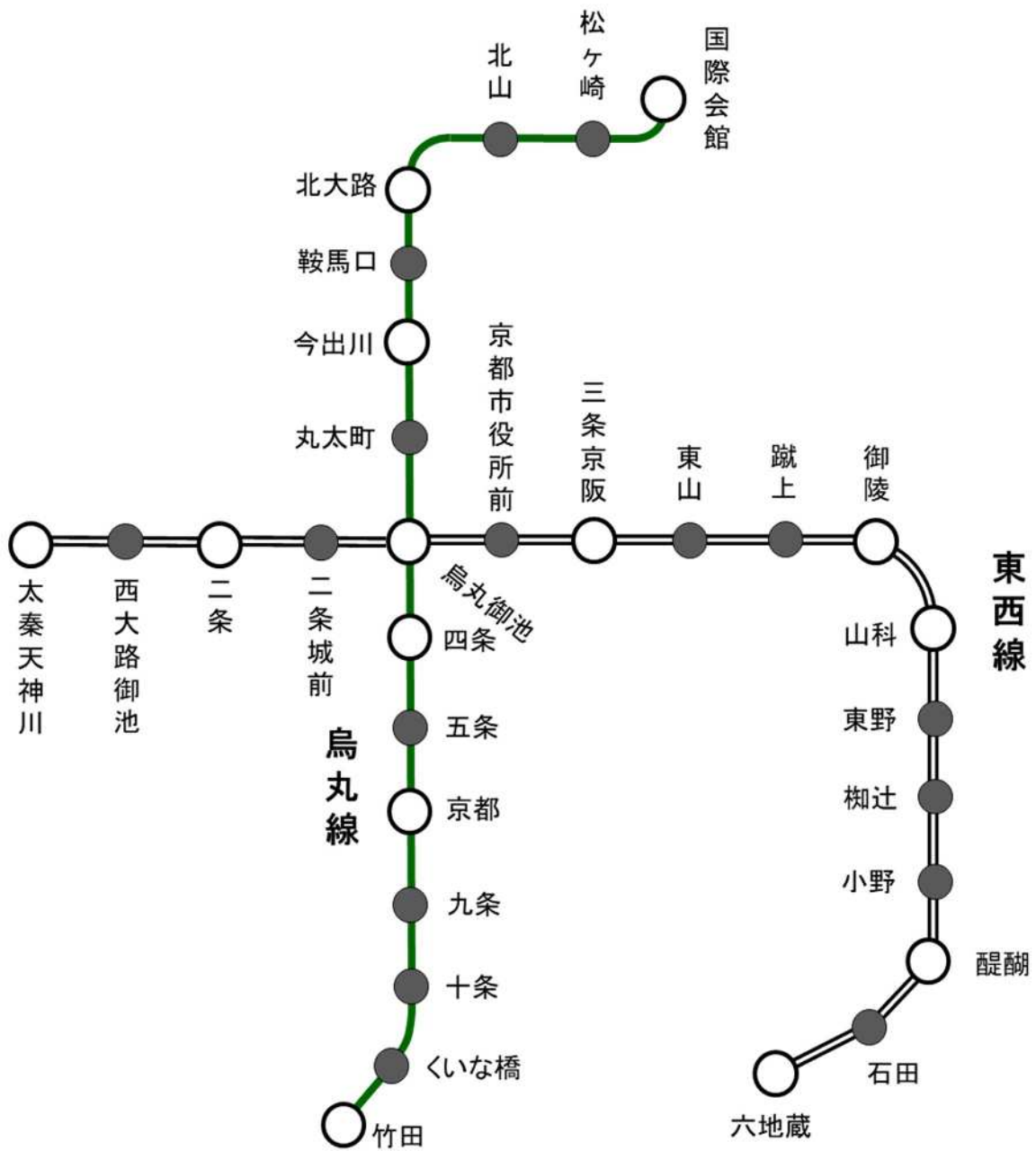
(ウ) 事業所及び施設

○ 運輸事務所及び駅

名 称	所在地
烏丸線運輸事務所	
乗務区 (竹田)	伏見区竹田西段川原町
駅務区 (九条)	南区東九条南烏丸町
国際会館駅	左京区岩倉南大鷲町
松ヶ崎駅	左京区松ヶ崎六ノ坪町
北山駅	北区上賀茂岩ヶ垣内町
北大路駅	北区小山北上総町
鞍馬口駅	上京区上御霊中町
今出川駅	上京区岡松町
丸太町駅	中京区大倉町
烏丸御池駅	中京区虎屋町
四条駅	下京区二帖半敷町
五条駅	下京区大坂町
京都駅	下京区東塩小路町
九条駅	南区東九条南烏丸町
十条駅	南区東九条南石田町
くいな橋駅	伏見区竹田中島町
竹田駅	伏見区竹田桶ノ井町

名 称	所在地
東西線運輸事務所	
乗務区 (醍醐)	伏見区醍醐高畑町
駅務区 (京都市役所前)	中京区下丸屋町
六地蔵駅	宇治市六地蔵奈良町
石田駅	伏見区石田森東町
醍醐駅	伏見区醍醐高畑町
小野駅	山科区小野西浦
柳辻駅	山科区柳辻草海道町
東野駅	山科区東野片下り町
山科駅	山科区安朱南屋敷町
御陵駅	山科区御陵原西町
蹴上駅	東山区東小物座町
東山駅	東山区大井手町
三条京阪駅	東山区大橋町
京都市役所前駅	中京区下丸屋町
烏丸御池駅(再掲)	中京区虎屋町
二条城前駅	中京区二条城町
二条駅	中京区西ノ京星池町
西大路御池駅	中京区西ノ京東中合町
太秦天神川駅	右京区太秦下刑部町

○ 地下鉄各駅の委託状況



【地下鉄駅数】 31 駅 (直営駅：14 駅、委託駅：17 駅)

〔烏丸線〕 —— 14 駅

〔東西線〕 —— 17 駅

○ … 烏丸線直営駅 6 駅

○ … 東西線直営駅 8 駅

● … 烏丸線委託駅 8 駅

● … 東西線委託駅 9 駅

注 烏丸御池駅は東西線に含みます。

○ 車両基地

名称	所在地	敷地
竹田車両基地	伏見区竹田西段川原町	約 68,000 m ²
醍醐車庫	伏見区醍醐高畑町	約 14,500 m ² (地下構造式)

○ 変電所

名称	所在地
国際会館前変電所	左京区岩倉大鷲町
北大路変電所	北区小山北上総町
姉小路変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
勸進橋変電所	南区上烏羽勸進橋町
醍醐変電所	伏見区醍醐川久保町
山科変電所	山科区安朱中小路町
東山変電所	東山区分木町
御池変電所	中京区姉小路通東洞院西入車屋町
天神川変電所	右京区太秦下刑部町



竹田車両基地



醍醐車庫

(工) 駅設備

○烏丸線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	国際 会館	松ヶ 崎	北 山	北 大 路	鞍 馬 口	今 出 川	丸 太 町	烏 丸 御 池	四 条	五 条	京 都	九 条	十 条	く い な 橋	竹 田	計
	[K01]	[K02]	[K03]	[K04]	[K05]	[K06]	[K07]	[K08]	[K09]	[K10]	[K11]	[K12]	[K13]	[K14]	[K15]	
エレベータ(基)	3	2	2	2	2	2	1	※	3	2	3	2	2	2	4	32
エスカレータ(基)	3	3	1	5	1	4	2	※	6	3	4	1	1	2	5	41
改札口(か所)	1	1	1	2	1	2	2	※	3	2	4	1	1	1	2	24
自動券売機(台)	3	2	3	5	4	5	5	※	8	5	14	2	2	2	4	64
自動改集札機(台)	5	4	5	9	4	9	8	※	13	6	21	4	4	4	10	106
精算機(台)	2	1	1	3	1	3	2	※	4	2	7	1	1	1	2	31

注1 烏丸御池駅分は、東西線で一括計上しています。

注2 烏丸御池駅、四条駅、京都駅、北大路駅の4駅に可動式ホーム柵を設置しています。

○東西線

駅名 [駅ナンバリング表示] 設備名	六 地 蔵	石 田	醍 醐	小 野	柳 辻	東 野	山 科	御 陵	蹴 上	東 山	三 条 京 阪	京 都 市 役 所 前	烏 丸 御 池	二 条 城 前	二 条	西 大 路 御 池	太 秦 天 神 川	計
	[T01]	[T02]	[T03]	[T04]	[T05]	[T06]	[T07]	[T08]	[T09]	[T10]	[T11]	[T12]	[T13]	[T14]	[T15]	[T16]	[T17]	
エレベータ(基)	5	5	2	2	2	3	1	2	2	2	2	1	3	2	2	5	4	45
エスカレータ(基)	5	3	3	1	3	4	2	6	7	2	6	4	10	2	3	4	4	69
改札口(か所)	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	19
自動券売機(台)	3	2	4	2	3	2	4	2	3	3	4	3	7	2	3	2	3	52
自動改集札機(台)	5	4	5	4	4	4	6	4	4	4	7	4	9	4	5	4	4	81
精算機(台)	1	1	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	3	1	1	1	1	22

注 東西線は全駅にホームドアを設置しています。

イ 地下鉄運賃

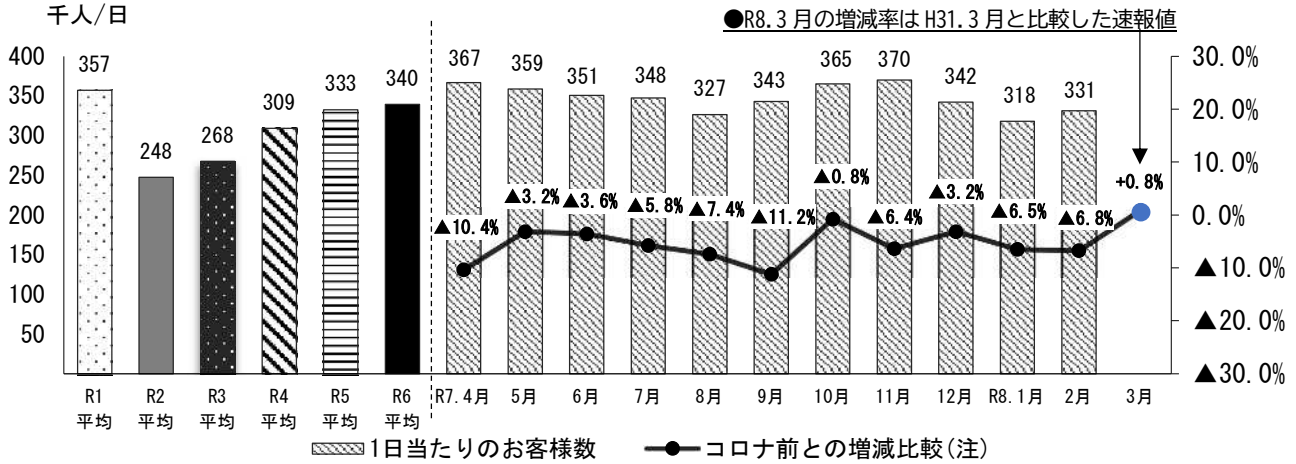
(単位：円)

区 分	1区 (3キロまで)	2区 (3キロを超え7キロまで)	3区 (7キロを超え11キロまで)	4区 (11キロを超え15キロまで)	5区 (15キロを超える区間)
大 人	220	260	290	330	360
小 人	110	130	150	170	180

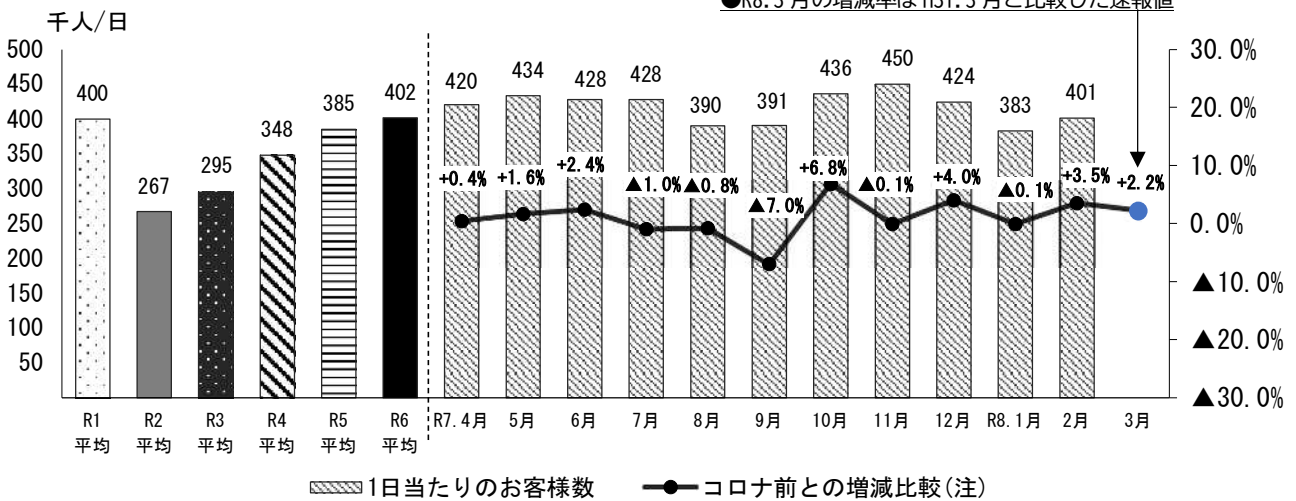
2 直近の経営状況

(1) 1日当たりのお客様数の推移（令和7年度）

ア 市バス



イ 地下鉄



注 令和元年度比較（ただし、2月、3月はコロナの影響があったため平成30年度との比較）

(2) 令和7年度の決算見込み

- ・ お客様の御利用状況は、通勤・通学による定期利用をはじめ、観光客等による定期外の御利用が増加傾向にあり、年間を通じた全体のお客様数は、前年度（令和6年度）との比較では1日当たり市バスで9千人増、地下鉄で13千人増を見込む
- ・ 市バスの収支は、お客様数の回復や、平均乗車単価を他都市並み水準へ改善させてきたものの、処遇改善のための人件費や物価の高騰による影響が大きく1億円の経常赤字が見込まれる状況
- ・ 地下鉄の収支は、市バスからの利用誘導や通勤・通学で御利用いただくお客様数が安定的に推移していることもあり、処遇改善のための人件費や物価の高騰による影響を受けながらも19億円の経常黒字が見込まれる状況

3 令和8年度予算

(1) 予算編成の基本方針

●基本方針

「京都基本構想」の理念等を踏まえ令和8年3月に改定された「新京都戦略」に掲げる政策の実現に寄与する持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指す。

●重要課題への対応

市民生活と観光の調和・両立 ～市バスの混雑対策～

市バス等の市民優先価格の実現、市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手をはじめ、市バス輸送力を効果的、効率的に配分しつつ、地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散など、引き続き市バスの混雑対策等に取り組めます。

将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

●予算の重点項目

重点1 安全・安心の取組

重点2 将来を見据えた経営戦略の推進 ※再掲

重点3 利便性・快適性の向上

重点4 社会課題解決への貢献等

●市バス・地下鉄の財政状況

(参考) 令和8年度予算における宿泊税充当事業一覧

各項目に記載している金額は事業費の予算額（税込）を示します。

12ページ以降の見出しや事業名に(◎)のある項目は新京都戦略（令和8年3月改定）に掲げる取組であることを示します。

新京都戦略に掲げる交通局の取組について

京都基本構想の理念等を踏まえ、令和8年3月に改定された新京都戦略のリーディング・プロジェクトや政策集に掲げる交通局の取組項目は次のとおりです。（箱書きは政策集に記載の取組項目で、★印はリーディング・プロジェクトであることを示します。）

柱1 京都のまちが紡ぐ文化の力を活かし「新たな魅力・価値を創造し続けるまち」

(4) 市民生活と「観光」の両立

- ① 国との連携による全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の「市民優先価格」の実現【R9】(★)と、バス・バス無料乗継などの運賃体系のあり方や二条城等の公共施設の「市民優先価格」など更なる市民サービス向上の検討
- ④ 観光特急バスの利用促進、リアルタイム運行情報(車内混雑度や走行位置等)の発信強化【R8】、均一運賃系統における「前乗り後降り方式」の導入【R10以降】など、市バスの混雑対策の実施
- ⑤ デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入【R9】など、市バス・地下鉄のキャッシュレス化の更なる推進
- ⑥ 旅先を大切にす旅行者の心構えを示す「ツーリストシップ」の周知【R8】による観光マナーの啓発及び観光関連事業者・従事者等、観光客、市民の京都観光にかかわる三者がお互いに尊重し合う関係づくりの推進

(交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組)

- 市バス等の市民優先価格の実現に向けた市民周知、識別システムの構築や運賃箱等の機器改修 (R8～9年度) P16
- 市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手 (R8～11年度) P16
- 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化 (R8～10年度) P16
- デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済 (R7～9年度) P17
- 旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施等 P17
- 観光特急バスの利用促進 P17
- 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充 P17

柱5 豊かな自然・歴史的景観と地域の魅力を活かした「自然環境と調和する持続可能なまち」

(4) 持続可能な公共交通の維持、多様な主体との連携によるまちづくりの推進

- ① 利用者の減少や担い手不足により厳しい状況にあるバス路線を維持するための支援、デマンド交通など地域の実情に合わせた交通システムの検討【R8】(★)など、持続可能な公共交通ネットワークの形成の推進
- ② まちの持続可能性や市内移動の利便性の維持・向上、さらには、京都のまちの発展・魅力向上にも資する、新技術や新たな交通システムを含めた京都の交通のあり方の検討【R8】(★)
- ③ 洛西地域での自動運転バスの実証実験など、市バスにおける自動運転レベル4の実装化に向けた取組の推進(★)
- ④ 地域や交通事業者との連携による、高齢者なども含めたモビリティ・マネジメント(利用促進)の取組の推進

- ⑥ 持続可能な市バス・地下鉄事業運営のための運賃のあり方検討
- ⑦ 地下鉄烏丸線への可動式ホーム柵の全駅設置【R9】、四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター設置【R8】など地下鉄駅における更なるエレベーターの増設、駅トイレのアップグレードプロジェクト、券売機での定期券の発売券種やクレジットカードによる決済手段の追加、異常時にお客様へ情報を発信するディスプレイの設置【R9】など市バス・地下鉄を安心・安全・快適に御利用いただくための取組の推進
- ⑧ 地下鉄駅構内へのベビーケアルームの設置拡大や駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充【R8】など、市バス・地下鉄事業運営を通じた社会課題解決への貢献
- ⑨ 四条駅における大規模リニューアル【R10以降】など、地下鉄の駅施設等を活用した更なる賑わいの創出
- ⑩ 地域特性に応じた活性化プロジェクト(★)の市内周辺部の他の地域への拡大展開と新たな交通ネットワークの整備を図り、周辺自治体とも連携して京都全体の発展につなげ、広域的な都市圏「大京都圏」を創出

(交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組)

【市バス】

- 市バス車両の駐車ブレーキ注意喚起アラーム機能の追加や
ドライブレコーダーのリアルタイム通信機能拡充に向けた検討 P20
- 都市計画局と連携した自動運転（レベル4）による市バス等への
自動運転バスの導入に向けた取組の推進 P19

【地下鉄】

- 地下鉄烏丸線への可動式ホーム柵の全駅設置（R8～12年度） P20
- 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター設置 P22
- 地下鉄駅における更なるエレベーターの増設 P22
- 駅トイレのアップグレードプロジェクト P23
- 緊急情報発信ディスプレイの設置（R8～10年度） P23
- 駅構内へのベビーケアルームの設置 P25
- 駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充 P25
- 駅ナカビジネスの更なる増収に向けた四条駅における大規模リニューアル
（基本構想の策定） P18

【両事業共通】

- 担い手の確保・育成等 P18
- 定期券購入の利便性向上（R8～9年度） P23
- 運賃制度の更なるシームレス化（「meetus 山科 - 醍醐」や「洛西“SAIKO”プロジェクト」の推進と連携したIC定期券の共通利用化等） P24

柱6 市民のいのち・暮らしを守る「安心安全で災害に強いレジリエントなまち」

(2) 防災減災のためのインフラ整備・維持管理

- ⑤ 地下鉄駅出入口等の浸水対策強化【R8】など、豪雨災害の激甚化・頻発化に伴う地下鉄施設の災害対策の強化

(交通局における令和8年度及び令和9年度以降の主な取組)

- 地下鉄駅出入口等の浸水対策の強化 P21
- 地下鉄における気象予報アプリの導入 P21

(2) 予算の概要

(令和8年度の見通し)

- 市バスは、お客様数の堅調な推移を見込む一方で、バス運転士等の処遇改善のための人件費をはじめ、旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施や均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手など将来を見据えた新規事業に着手することによる支出の増加により9億円の経常赤字を見込む
- 地下鉄は、好調なお客様数に支えられ9億円の経常黒字を見込む一方、この間、着実に減少させてきたものの企業債残高は約2,800億円と依然として高い水準にあり、今後も引き続き厳しい経営状況
- この間「明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”」を強力に押し進めてきた成果もあり、両事業あわせて収支均衡となるなど財政面でも大きく改善
- 令和8年度予算は、持続可能で安全かつ満足度の高い市バス・地下鉄を目指すことを基本方針に、市バス等の市民優先価格の実現をはじめ、市バスの前乗り後降り方式の導入着手、市バスのリアルタイム運行情報の発信強化、地下鉄の烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置の推進、地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手、券売機での定期券発売機能の向上等の利便性向上策を実施するなど、将来を見据え、攻めの視点も取り入れた予算として編成
- このような中、「京都基本構想」の理念と「新京都戦略」（令和8年3月改定）に掲げる政策の実現に向けて取り組むことを基本とし、アフターコロナにおけるお客様数の動向や現下の人件費や燃料費等の運営コストの高騰等、経営環境が大きく変化している今、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定していく

ア 予算の主要数値

【市バス】

	7年度予算 A	8年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	810両	810両	—
走行キロ数 〔1日平均〕	80.9千km	81.0千km	0.1千km
経常損益	▲8億円	▲9億円	▲1億円
▲累積欠損金	▲16億円	▲10億円	6億円
資金剰余	18億円	25億円	7億円
年度末企業債 残高	95億円	89億円	▲6億円

【地下鉄】

	7年度予算 A	8年度予算 B	増▲減 B-A
在籍車両数	222両 〔37編成〕	222両 〔37編成〕	—
走行キロ数 〔1日平均〕	57.0千km	57.0千km	—
経常損益	5億円	9億円	4億円
▲累積欠損金	▲3,082億円	▲3,048億円	34億円
▲累積資金不足	▲504億円	▲524億円	▲20億円
年度末企業債 残高	2,968億円	2,810億円	▲158億円

イ お客様の御利用状況

【市バス】

(単位：千人/日)

	6年度 決算	7年度		8年度 予算 B	対前年 増減率		(参考) 元年度 決算
		予算 A	見込		増減 B-A	(B-A)/A	
市バス	340	343	349	357	14	4.1%	357
うち定期	97	96	100	103	7	7.3%	96
うち通勤	74	74	78	82	8	10.8%	72
うち通学 ^(大学)	17	16	18	19	3	18.8%	17
うち定期外	188	192	195	201	9	4.7%	187

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	207	210	215	220	10	4.8%	200
-----------------	-----	-----	-----	-----	----	------	-----

【地下鉄】

(単位：千人/日)

	6年度 決算	7年度		8年度 予算 B	対前年 増減率		(参考) 元年度 決算
		予算 A	見込		増減 B-A	(B-A)/A	
地下鉄	402	403	415	426	23	5.7%	400
うち定期	171	170	176	181	11	6.5%	168
うち通勤	113	113	117	122	9	8.0%	109
うち通学 ^(大学)	40	38	41	42	4	10.5%	40
うち定期外	214	216	222	229	13	6.0%	208

(参考)

運賃収入 (億円/税抜)	263	263	272	280	17	6.5%	258
-----------------	-----	-----	-----	-----	----	------	-----

(3) 重要課題への対応

1 市民生活と観光の調和・両立 ～市バスの混雑対策～

市バスの一部路線・時間帯で生じる混雑への対策を積極的に展開し、本市の観光課題対策に取り組みます。

ア 市バス等の市民優先価格の実現 (◎)

全国初のパイロットプロジェクトとなる市バス等の市民優先価格について、観光が市民生活の豊かさに繋がることを市民に実感していただくことで、市民と観光客が共存する機運の醸成に繋げ、市民生活と観光の調和を目指します。令和9年度中の実現に向け、市民周知、識別システムの構築や運賃箱等の機器改修に着手します。(R 8～9年度 925,065 千円)

イ 市バスの混雑対策

(ア) 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等 (◎)

- ① 均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手
(181,104 千円)
- ② 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化
 - ・令和7年度の交通局ホームページでの発信(市バスの車内混雑度や走行位置)に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信(オープンデータ化)できるようにシステム改修に着手(R 8～10年度 798,970 千円)
 - ・バスロケーションシステムの機能拡充(車内混雑度やバス到着予定時刻の発信)に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施(100か所 154,000 千円)



- ③ デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進
スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券とクレジットカードによるタッチ決済の導入
(R 7～9年度 1,755,582 千円)
- ④ 旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施等
 - ・観光利用の回復がみられる一方、全国的に深刻な担い手不足などがあり、さらに市民優先価格の導入を令和9年度に控えるなど、市バス事業をとりまく環境が大きく変化する中、限りある輸送力をより一層効果的かつ効率的に配分していくため、御利用状況を詳細に把握する調査を実施 (241,000 千円)
 - ・路線、ダイヤのあり方を検討していくため、乗降人員や遅延状況等の客観的なデータ分析を行うための基盤を整備 (27,500 千円)

(イ) 地下鉄をはじめとした鉄道を活かした移動経路の分散 (◎)

- ① 京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動拡充
語学が堪能な学生スタッフ等により、市バスの分散乗車をはじめ、地下鉄への利用誘導、大型手荷物の車内持ち込みの抑制に向けた手ぶら観光の推奨等を実施。なお、お客様の増加に対応し「金閣寺道」をはじめ観光地最寄りのバス停での活動を充実 (62,633 千円)
- ② 京都駅前バスのりばや主要観光地周辺のバス停における整列、誘導を行う案内活動の実施 (102,304 千円)
- ③ 観光シーズンにおける京都駅に向かうバスから地下鉄への無料振替 (5,440 千円)
- ④ 「地下鉄・バス1日券」の販売をはじめとする鉄道への利用誘導
 - ・WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR (11,000 千円)
 - ・航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR (23,507 千円)
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施(10,000 千円)
 - ・観光シーズンにおけるJR東海京都駅での「地下鉄・バス1日券」の臨時販売

(ウ) 観光特急バスの利用促進 (◎)

- ① 効果検証結果を踏まえた運行パターン・ダイヤの見直し
 - ・EX100号系統とEX101号系統の運行パターンの見直し
 - ・お帰りの時間帯におけるEX100号系統について、午後の清水道(始発)便を祇園(始発)便に変更(令和8年3月実施)
- ② WEB媒体を活用した「旅マエ」でのPR (11,000 千円) ※再掲
- ③ 航空機内、空港、鉄道駅、関西空港リムジンバス車内、宿泊施設等における「旅ナカ」でのPR (23,507 千円) ※再掲

2 将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DXの推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

ア 担い手の確保・育成等

(ア) 更なる処遇改善や職場環境の改善等 (◎)

- ① 公休日数の増加や勤務間インターバルの改善
- ② 市バス営業所や地下鉄保守事務所等における女性用施設の整備、仮眠室・休憩室の改修等 (113,965 千円)

(イ) 採用に係るPRや受験機会の拡大 (◎)

- ① 働きやすい職場認証制度の二つ星取得 (160 千円)
- ② 求人イベントへの出展や市バス運転体験会の開催等 (2,930 千円)
- ③ 大型二種免許取得費用の助成 (30,879 千円)



「働きやすい職場」
認証マーク

(ウ) 職員のスキルアップやモチベーションアップの取組

- ① 「運転技能・接遇コンテスト」の開催 (500 千円)
- ② 資格取得支援制度によるスキルアップの奨励 (300 千円)

イ 明確な理念に基づく“なりふり構わない経営改善”の取組

(ア) 利用促進・収入増加策

- ① 1人でも多くのお客様に御利用いただくための取組
 - ・地下鉄・バス「MOTTO!」利用促進本部による全庁体制での「市バスの赤字系統の利用促進」及び「地下鉄とバスを組み合わせた移動への誘導」に向けた取組の推進
 - ・周辺部への誘客キャンペーンの実施 (10,000 千円) ※再掲
 - ・民間事業者・大学等との連携による利用促進
- ② 駅ナカビジネスの増収策 (◎)
 - ・四条駅における大規模リニューアルに向けた基本構想の策定 (R8～9年度 45,760 千円)
 - ・小規模スペースを有効活用した自動販売機の増設やイベントスペースの利用促進等 (7,260 千円)
- ③ 広告料収入をはじめとしたあらゆる増収策の実施
 - ・デジタルサイネージ等のクライアントニーズの高い広告媒体の増設や広告代理店と連携した販売促進
 - ・まちピンチキャラクターのLINEスタンプの販売等
 - ・ふるさと納税制度による寄付や交通局の返礼品での資金調達

(イ) 経費削減策

- ① 市バス車両のリース方式での調達による企業債償還負担の軽減
- ② 地下鉄駅の有人改札業務のリモート化の拡大
(北山、鞍馬口、丸太町、五条、十条、くいな橋)
- ③ 改集札機の I C 専用機導入等による保守管理費用の削減等
- ④ 設備更新による電力使用量の削減
 - ・エレベーターの更新 (丸太町、二条城前)
 - ・駅舎等における照明の L E D 化 (六地藏、石田ほか)

(ウ) 経営状況の見える化

- ① S N S 等でのまちピンチキャラクターを活用した経営状況の発信
- ② 広告の空き枠 (市バス車両の外側看板や地下鉄駅の電照広告) を活用した経営状況等の発信

(エ) 国の支援制度の活用や国・府への要望活動の実施

- ① 担い手確保や物価高騰、交通 D X ・ G X (グリーントランスフォーメーション) に対する支援拡充
- ② 地下鉄事業における可動式ホーム柵等のバリアフリー対策や駅出入口等の浸水対策に係る国庫補助制度の継続・拡充等

ウ 交通 D X の推進

(ア) 限りある市バス輸送力の効果的・効率的な配分等

- ① 路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備 (27,500 千円) ※再掲
- ② 都市計画局と連携した自動運転 (レベル 4) による市バス等への自動運転バスの導入に向けた取組の推進

(イ) 生成 A I サービス等のデジタルツールの導入

- ① 更なる事務効率化の推進 (16,374 千円)
幅広い情報収集や新しい事業アイデアの創出等に活用できる生成 A I サービスや、システム構築に関する専門知識が無い職員でも業務アプリ等を開発できるデジタルツールの活用
- ② 地下鉄トンネル等検査業務の D X 化
 - ・車両前方に高精細カメラやセンサーを設置することでトンネル等の状態を A I により自動解析する仕組みの構築に向けた試験運用を実施 (R 8 ~ 9 年度 11,000 千円)
 - ・軌道保守管理システムを導入し、効率的にレールを管理、整備していくために、軌道や車両のデータベース構築に必要な測定や調査を実施 (17,314 千円)

エ 次期経営計画の策定

この間のお客様数の動向や運営コストの高騰等の大きな経営環境の変化を踏まえ、交通 D X の推進を図るなど幅広い分野について、従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を前倒しで策定 (2,834 千円)

(4) 予算の重点項目

重点1 安全・安心の取組

交通事業者として最大の責務である「輸送の安全確保」を徹底し、お客様に安全・安心に御利用いただくための取組を最優先に実施します。

1 輸送の安全確保に向けた取組

ア 市バスの安全対策

(ア) 輸送の安全確保に係る研修等

- ① 安全運転訓練車によるセーフティサポート研修
- ② 運転士向け事故防止重点研修等の実施 (5,567 千円)
- ③ 事故多発者に向けた外部機関による研修プログラム (913 千円)
- ④ 運転士の安全意識向上やモチベーションアップに向けた「運転技能・
接客コンテスト」の実施 (500 千円) ※再掲

(イ) 車両や設備の安全対策に係る投資等

- ① 市バス車両の計画的更新 (R8年度 55 両 1,348,904 千円)
- ② 駐車ブレーキ注意喚起アラーム機能の追加 (16,225 千円) (◎)
- ③ ドライブレコーダーのリアルタイム通信機能拡充に向けた検討
(1,643 千円) (◎)
- ④ 安全対策が必要と思われるバス停に係る対策の検討 (1,000 千円)
- ⑤ 歩道のかさ上げなどバス停におけるバリアフリー改修 (3,000 千円)

イ 地下鉄の安全対策

(ア) 輸送の安全確保に係る研修等

- ① 駅係員や乗務員への定期教育訓練の実施

(イ) 車両や設備の安全対策に係る投資等

- ① 烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置 (◎) ※総事業費約 45 億円
R8年度 …設計及び工事着手に向けた調査等 (53,698 千円)
R9～12年度…可動柵の製作、設置
(R10年度から、順次供用開始、R12年度完成予定)
設置順：五条駅→丸太町駅→今出川駅→鞍馬口駅→北山駅→松ヶ崎駅
→国際会館駅→九条駅→十条駅→くいな橋駅→竹田駅



烏丸線可動式ホーム柵

- ② 既存車両への車内防犯カメラの設置（28,716千円）
R8年度…烏丸線3編成（累計15編成 ※新造車両9編成を含む）、
東西線5編成（累計10編成）
- ③ 地下鉄トンネル等検査業務のDX化 ※再掲
 - ・車両前方に高精細カメラやセンサーを設置することでトンネル等の状態をAIにより自動解析する仕組みの構築に向けた試験運用を実施（R8～9年度11,000千円）
 - ・軌道保守管理システムを導入し、効率的にレールを管理、整備していくために、軌道や車両のデータベース構築に必要な測定や調査を実施（17,314千円）

2 災害対策、犯罪防止の取組

- ① 地下鉄駅出入口等の浸水対策の強化（58,000千円）（◎）

※2月補正で計上

工事…北山、今出川、烏丸御池、四条、
変電所（姉小路、勧進橋）、柳馬場中間換気所
設計…醍醐、西大路御池、松ヶ崎、九条、
変電所（国際会館、天神川）
六条中間換気所 ※いずれもR9年度工事予定



駅出入口の止水板

- ② 地下鉄における気象予報アプリの導入（◎）
1平方キロメートル単位に細分化された詳細な予報による駅ごとの警戒情報に基づきより迅速に止水板の設置等を実施（389千円）
- ③ 車内放送等による啓発や警察・大学等と連携した痴漢・盗撮対策など犯罪防止に向けた取組
- ④ 警察・消防など関係機関との連携による火災やテロ対策等を想定した合同訓練の実施



市バス洛西営業所で実施したテロ対策訓練の様子



烏丸線北大路駅で実施した合同防災訓練の様子

重点2 将来を見据えた経営戦略の推進

事業運営を支える担い手確保に向けた処遇改善や採用活動に積極的に取り組むことをはじめ、周辺部への誘客など1人でも多くのお客様に御利用いただくための利用促進策、駅ナカビジネスや広告等による収入増加策、交通DXの推進を図ります。また、これらを取り入れた従来の延長線上にはない攻めの視点も取り入れた次期経営計画を策定します。

重点3 利便性・快適性の向上

お客様により便利で快適に御利用いただくことを目指して、御利用環境の整備やサービス向上の取組を進めていきます。

1 市バス

ア 利便性・快適性の向上策

- (ア) 均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手 ※再掲
(181,104千円)
- (イ) 市バスのリアルタイム運行情報の発信強化 ※再掲
 - ① 令和7年度の交通局ホームページでの発信（市バスの車内混雑度や走行位置）に加え、令和10年度にはバスの到着予定時刻等を経路検索事業者が地図アプリ等で発信（オープンデータ化）できるようシステム改修に着手（R8～10年度798,970千円）
 - ② バスロケーションシステムの機能拡充（車内混雑度やバス到着予定時刻の発信）に向けアナログ方式からデジタル方式への切り替えを実施（100か所154,000千円）
- (ウ) バス待ち環境向上
 - ① バス停上屋の新設及び老朽化した上屋の更新（33,977千円）
 - ② バス停標識柱の更新等による照明のLED化（21,960千円）
 - ③ ベンチの新設・更新（2,963千円）
 - ④ 夏期におけるドライ型ミスト装置の稼働（8,713千円）



バス停上屋

2 地下鉄

ア 利便性・快適性の向上策

- (ア) エレベーター（E V）の増設
 - ① 四条駅の阪急連絡通路へのE V新設（67,650千円）（◎）
 - ② 地下鉄駅へのE V増設に向けた検討の着手（45,000千円）（◎）



四条駅の阪急連絡通路へのエレベーターの設置イメージ

(イ) 駅トイレのアップグレードプロジェクト (◎)

地下鉄駅トイレについて、「美装化」や、温水洗浄便座の設置、洋式化などの「バリアフリー化」を行うとともに、パウダーコーナーの設置や女性トイレの個室の増設を検討するなど「女性用トイレのアップグレード」を戦略的に実施

- ① アップグレード (117,131 千円)
四條 (地下2階) …R 8年度 (工事)
東山、烏丸御池 …R 8年度 (設計)、R 9年度 (工事)
- ② 温水洗浄便座の設置 (9,000 千円)
京都市役所前、二條城前、丸太町、竹田 (北) …R 8年度 (設置)
今出川…R 8年度 (設計)、R 9年度 (設置)
- ③ 特別清掃の継続
特に御利用の多い3駅 (烏丸御池、四條、京都) で日常のトイレ清掃に加え、特別清掃の実施を継続 (1駅6回/年)
- ④ 日常のトイレ清掃回数の充実を継続
特に御利用の多い3駅 (烏丸御池、四條、京都) で日常のトイレ清掃回数の充実を継続 (5回から6回/日)

(ウ) 列車案内表示器の新設

近鉄線の機器更新に合わせた竹田駅コンコース階への列車案内表示器の設置 (21,450 千円) ※烏丸線の他の全駅はR 2～5年度にかけて設置済、東西線はH 9年度の開業当初から設置済



竹田駅コンコース階への
列車案内表示器の設置イメージ

(エ) 緊急情報発信ディスプレイの設置 (◎)

異常時におけるお客様への情報提供を充実するため、地下鉄及び地下鉄と接続する他社線の運行情報や振替輸送情報等を発信する大型ディスプレイを全駅の改札口に設置 (R 8～10年度 700,590 千円)

3 両事業共通

ア 定期券購入の利便性向上

(ア) 定期券の発売体制の強化

「西賀茂営業所」及び「横大路営業所」(いずれも月末と月始の3日間のみ営業)での販売を取りやめ、定期券発行機を「京都駅前」及び「北大路」(いずれも年末年始を除く年中無休)に移設し発売体制を強化 (24,695 千円)

(イ) 地下鉄駅券売機での定期券発売機能の向上 (◎)

券売機を改修し、発売券種やクレジットカードによる決済手段を追加
(R 8～9年度 321, 200 千円)

【地下鉄駅の券売機で購入が可能となる券種】

	現状	改修後 (<input type="checkbox"/> が充実部分)
購入可能券種	地下鉄単独 (通勤/継続)	地下鉄単独 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続)
	地下鉄-民鉄連絡 (通勤/継続)	地下鉄-民鉄連絡 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続)
		<input type="checkbox"/> 市バス単独 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続)
		<input type="checkbox"/> 市バス-地下鉄連絡 (通勤/ <input type="checkbox"/> 新規・継続)
決済手段	現金のみ	現金・ <input type="checkbox"/> クレジットカード

イ 運賃制度の更なるシームレス化 (◎)

「meetus 山科-醍醐」や「洛西“SAIKO”プロジェクト」の推進と連携した取組の一環として、IC定期券の共通利用化等、同地域を運行する民間バス事業者との運賃制度のシームレス化を実施 (令和9年春予定)

ウ デジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入推進※再掲

スマートフォンで企画乗車券の利用が可能となるデジタル乗車券・クレジットカードによるタッチ決済の導入 (R 7～9年度 1, 755, 582 千円)

重点4 社会課題解決への貢献等

子育て支援、女性活躍支援や事業活動における環境への配慮など社会課題解決への貢献に向けた取組や文化と経済の好循環の創出に向けた取組を展開します。

1 社会課題解決への貢献等

ア 市バスの取組

(ア) 環境負荷の低減に向けた取組

- ① 電気バスの導入（2両）（R8年3月運行開始）
- ② バス停標識柱や建物照明のLED化（梅津営業所整備棟ほか）

イ 地下鉄の取組

(ア) 環境負荷の低減に向けた取組

- ① 設備更新による電力使用量の削減 ※再掲
- ② 駅舎等における照明のLED化（六地藏、石田ほか） ※再掲

(イ) バリアフリーの取組

- ① 四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設 ※再掲
- ② 地下鉄駅へのエレベーター増設に向けた検討の着手 ※再掲
- ③ 温水洗浄便座の計画的設置 ※再掲

(ウ) 社会課題解決への貢献等

- ① 女性用トイレのアップグレード ※再掲
- ② ベビーケアルームの設置継続（3,287千円）(◎)
- ③ 駅トイレにおける生理用品の無料提供サービスの拡充（398千円）(◎)

生理用品の無料提供サービス
「toreluna（トレルナ）」



ウ 両事業共通の取組

(ア) 社会課題解決への貢献の取組等

- ① 交通サポートマネージャーの養成（760千円）
- ② エスカレーターの利用に係る啓発

2 文化芸術振興に係る取組

- ① 多様な文化・芸術イベント等と連携した利用促進の取組
- ② サブウェイ・パフォーマー事業の実施
- ③ KYOTO駅ナカアートプロジェクトの実施（4,250千円）

(5) 市バス・地下鉄の財政状況

【市バス】

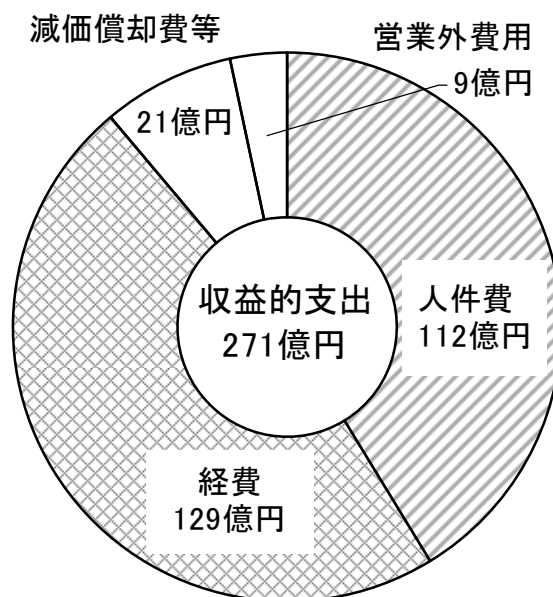
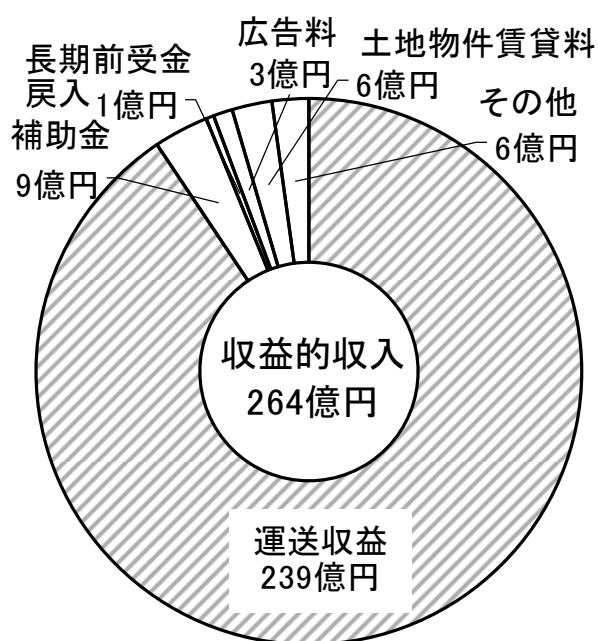
(税込額)

区 分		R8年度予算(A)		R7年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収支	営 業 収 益	248	50	237	47	11	03
	うち 運 送 収 益	238	63	227	71	10	92
	営 業 外 収 益	15	87	13	26	2	61
	うち 一 般 会 計 補 助 金	8	57	7	31	1	26
	収 入 計	264	37	250	73	13	64
	営 業 費 用	261	81	247	66	14	15
	うち 人 件 費	111	83	104	66	7	17
	うち 経 費 (燃 料 費 ・ 修 繕 費 等)	128	92	123	59	5	33
	うち 減 価 償 却 費 等	21	06	19	41	1	65
	営 業 外 費 用	9	13	8	28		85
支 出 計	270	94	255	94	15	00	
経 常 損 益	▲ 8	73	▲ 7	95	▲	78	
純 損 益	▲ 8	73	▲ 7	95	▲	78	
▲ 累 積 欠 損 金	▲ 9	89	▲ 15	73	5	84	
資本的 収支	収 入	26	24	31	07	▲ 4	83
	うち 企 業 債	20	08	25	04	▲ 4	96
	うち 補 助 金	4	48	5	56	▲ 1	08
	支 出	48	96	52	27	▲ 3	31
	うち 建 設 改 良 費	25	48	30	62	▲ 5	14
	うち 企 業 債 償 還 金	22	98	21	15	1	83
差 引	▲ 22	72	▲ 21	20	▲ 1	52	
資 金 剰 余	24	95	18	20	6	75	
年 度 末 企 業 債 残 高	89	01	94	83	▲ 5	82	

※経常損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

(収入・支出の内訳)

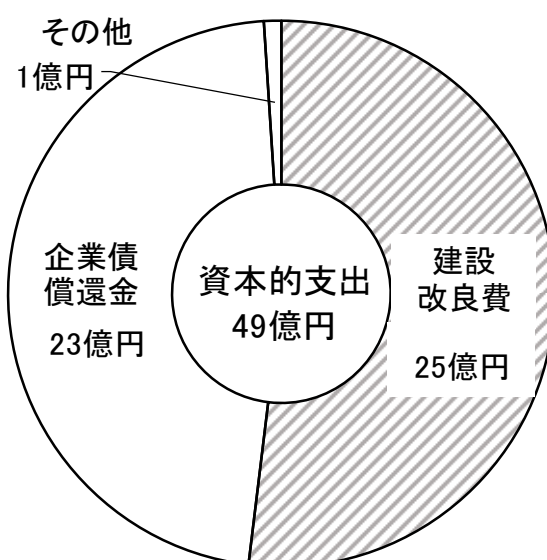
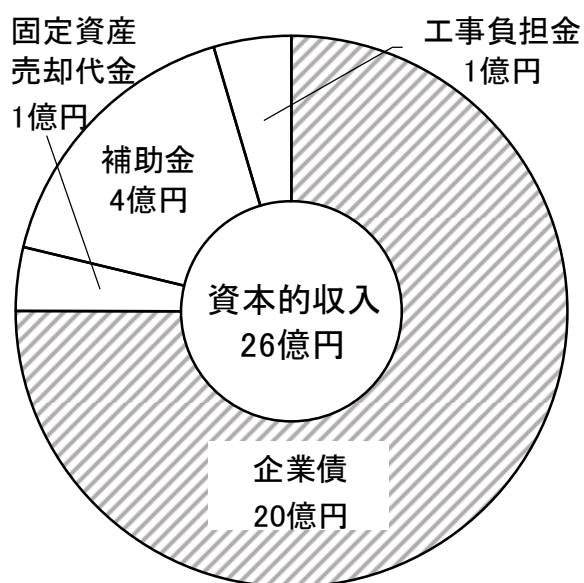
【収益的収支】



【補助金内訳(収益)】

市補助	8.6億円
府補助	0.1億円

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

市補助	4.5億円
-----	-------

【地下鉄】

(税込額)

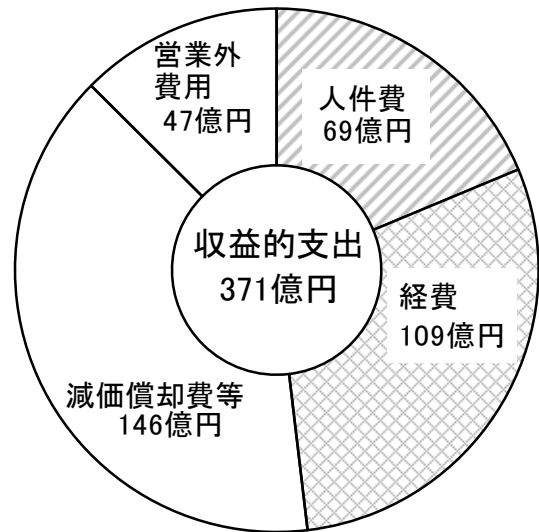
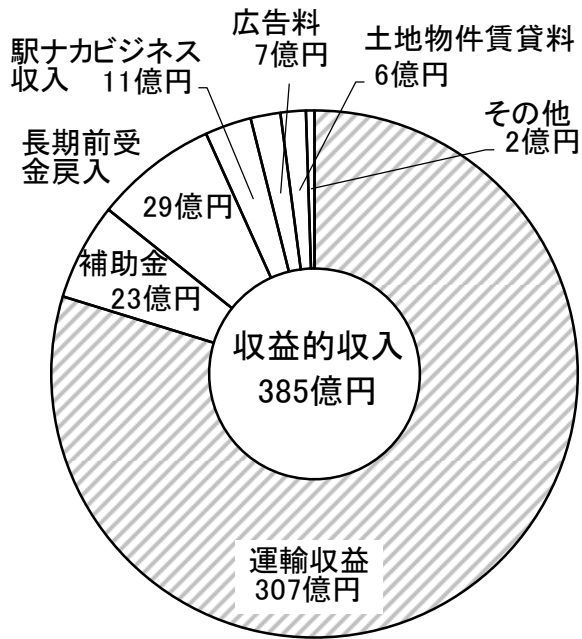
区 分		R8年度予算(A)		R7年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	332	99	314	67	18	32
	うち運輸収益	306	51	288	67	17	84
	営 業 外 収 益	52	49	52	27		22
	うち一般会計補助金	23	04	22	41		63
	収 入 計	385	48	366	94	18	54
	営 業 費 用	324	38	314	05	10	33
	うち人件費	69	49	66	23	3	26
	うち経費(動力費・修繕費等)	108	89	101	20	7	69
	うち減価償却費等	146	00	146	62	▲	62
	営 業 外 費 用	47	17	41	88	5	29
支 出 計	371	55	355	93	15	62	
経 常 損 益	9	39	5	22	4	17	
現金収支(償却前損益)	123	99	119	75	4	24	
▲ 累 積 欠 損 金	▲3,047	74	▲3,082	05	34	31	
資本的 収 支	収 入	221	76	221	38		38
	うち企業債	189	92	178	74	11	18
	うち補助金	21	82	28	88	▲7	06
	うち出資金	9	67	12	75	▲3	08
	支 出	402	55	413	56	▲11	01
	うち建設改良費	50	52	64	75	▲14	23
うち企業債償還金	351	03	347	81	3	22	
差 引	▲180	79	▲192	18	11	39	
▲ 累 積 資 金 不 足	▲523	65	▲504	18	▲19	47	
年 度 末 企 業 債 残 高	2,809	89	2,968	00	▲158	11	

※経常損益、現金収支、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R7年度予算同様、R8年度予算では、財政健全化法における資金不足額は生じない。

(収入・支出の内訳)

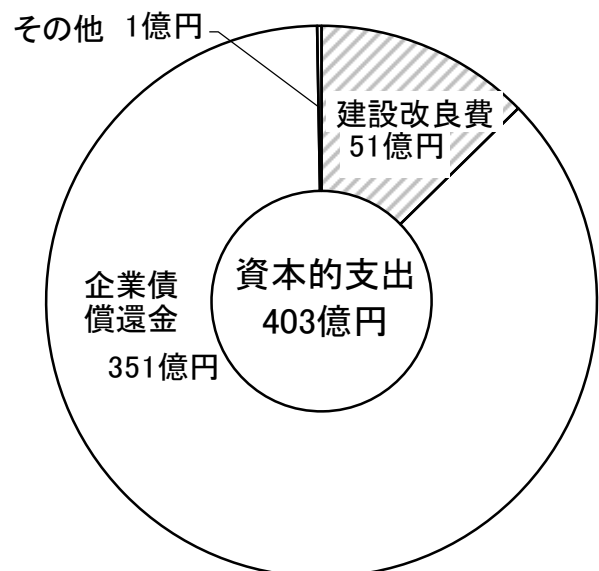
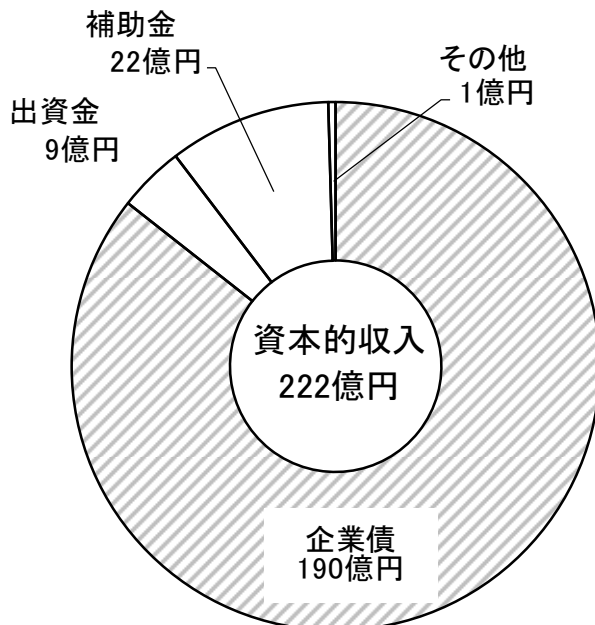
【収益的収支】



【補助金内訳(収益)】

国補助	-
府補助	0.1億円
市補助	23億円

【資本的収支】



【補助金内訳(資本)】

国補助	0.1億円
府補助	1.6億円
市補助	20.1億円

(参考) 令和8年度予算における宿泊税充当事業一覧

観光課題対策に資する市バスの混雑対策や受入環境整備事業等に
総額で約 6.6 億円（市バス約 4.3 億円、地下鉄約 2.3 億円）を活用します。

(単位：千円、税込)

混雑対策・受入環境整備事業【宿泊税充当事業】		8年度 予算	市バス	地下鉄
			1,674,369	1,159,600
	654,000	427,000	227,000	
収益的 収入	市バスの均一運賃系統における前乗り後降り方式の導入着手	181,104	181,104	—
		90,600	90,600	—
	担い手の確保に向けた職場環境の改善等	4,246	1,113	3,133
		2,123	557	1,566
	旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施	241,000	191,000	50,000
		120,500	95,500	25,000
	バス待ち環境の向上	2,160	2,160	—
		1,080	1,080	—
	歩道のかさ上げなどバス停におけるバリアフリー改修	3,000	3,000	—
		1,500	1,500	—
	京都市バス“おもてなしコンシェルジュ”の活動充実	62,633	62,633	—
		31,316	31,316	—
	地下鉄駅におけるトイレのアップグレードプロジェクト	1,000	—	1,000
		500	—	500
	ベビーケアルームの設置継続	3,287	—	3,287
		1,643	—	1,643
	地下鉄駅トイレにおける便座クリーナーの設置	2,937	—	2,937
		1,468	—	1,468
	地下鉄をより快適に御利用いただくための駅トイレ清掃の充実	6,600	—	6,600
		3,300	—	3,300
	地下鉄駅構内におけるラインの更新による安全・安心な利用環境の整備	1,790	—	1,790
		895	—	895
	デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済の導入推進(◇)	5,000	2,200	2,800
		1,000	200	800
	「地下鉄・バス1日券」の販売をはじめとする鉄道への利用誘導	34,507	15,183	19,324
		17,253	7,591	9,662
	地下鉄・市バスを組み合わせ合わせた利用促進	29,619	13,032	16,587
		14,809	6,516	8,293
	「修学旅行1dayチケット」の販売	50,475	33,650	16,825
		25,237	16,825	8,412
	夏期におけるドライ型ミスト装置の稼働	8,713	8,713	—
		4,356	4,356	—
	観光地周辺のバス停における案内や整列・誘導による混雑対策	63,556	63,556	—
	31,778	31,778	—	
京都駅前バスターミナル乗り場案内	38,748	38,748	—	
	19,374	19,374	—	
市バスから地下鉄への無料振替による渋滞対策	5,440	5,440	—	
	2,720	2,720	—	
主要バスのりばにおける分かりやすい案内表示への修正	7,219	7,219	—	
	3,609	3,609	—	
四条河原町(西行)バス停における車外での運賃収受によるバスの停車時間短縮	5,847	5,847	—	
	2,923	2,923	—	
市バスにおける4か国語コミュニケーションボードの修正	213	213	—	
	106	106	—	
観光特急バスの利用促進による混雑緩和	13,312	13,312	—	
	6,656	6,656	—	
どなたにも快適に御利用いただけるトイレの清掃・維持管理	5,933	1,036	4,897	
	2,966	518	2,448	
混雑緩和に向けた市バスの増車(9両) (端数調整分を含む)※令和6年6月実施分	2,566	2,566	—	
	1,635	1,635	—	
小計	780,905	651,725	129,180	
	389,347	325,360	63,987	

資本的 収入	路線・ダイヤ編成に向けたデータ分析基盤の整備	27,500	27,500	—
		13,800	13,800	—
	担い手の確保に向けた職場環境の改善等	89,959	13,915	76,044
		44,979	6,957	38,022
	バス待ち環境の向上	16,386	16,386	—
		8,193	8,193	—
	デジタル乗車券やクレジットカードによるタッチ決済 の導入推進 (◇)	237,369	161,469	75,900
		24,369	16,469	7,900
	混雑緩和に向けた市バスの増車 (9両) (端数調整分を含む) ※令和6年6月実施分	63,517	63,517	—
		32,133	32,133	—
	地下鉄駅におけるトイレのアップグレードプロジェクト	100,131	—	100,131
		50,065	—	50,065
	バスロケーションシステムのデジタル方式への切り替え (◇)	154,000	154,000	—
		16,000	16,000	—
	市バスのリアルタイム運行情報の発信強化 (◇)	71,088	71,088	—
		8,088	8,088	—
	烏丸線可動式ホーム柵の全駅設置に向けた設計等	37,698	—	37,698
		18,849	—	18,849
	地下鉄既存車両への車内防犯カメラの設置	23,716	—	23,716
		11,858	—	11,858
	地下鉄四条駅の阪急連絡通路へのエレベーター新設	54,650	—	54,650
		27,325	—	27,325
	竹田駅コンコース階への列車案内表示器の新設 (端数調整分を含む)	17,450	—	17,450
		8,994	—	8,994
	小計	893,464	507,875	385,589
		264,653	101,640	163,013

- ・表中の金額のうち上段は経費、下段は宿泊税充当額を示します。
- ・表中の (◇) は宿泊税と併用し「デジタル活用推進事業債」(地方債充当率 90%、交付税措置率 50%) を活用した一般会計補助金の繰り入れを想定している事業であることを示します。

4 附帯事業

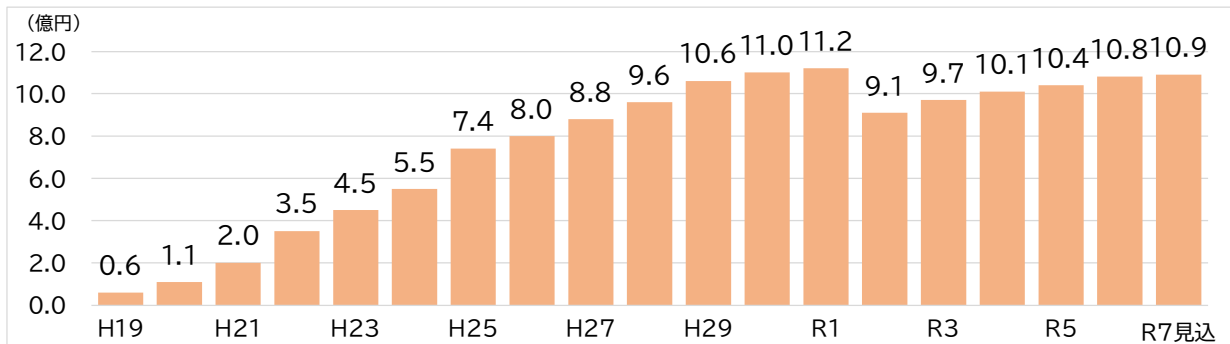
(1) 駅ナカビジネス収入の推移

駅ナカビジネスにおいては、K Y O T O W i - F i のサービス終了に伴う機器設置使用料の減少、コロナ禍以降のキャッシュレス決済の進展に伴うA T M撤退、最低保証賃料の減少による影響が一部継続している中でも、店舗入替による賃料増額やお客数回復による売上増加、自動販売機の増設等、小規模スペースの有効活用による売上増加により、令和7年度決算では10.9億円(前年度比+3百万円)を見込んでいます。

しかしながら、コロナ禍前の令和元年度比では約▲3%となっており、依然として厳しい状況が続いています。

そのため、さらなる増収を目指し、四条駅において駅機能及び商業機能を対象とした駅全体の抜本的な再構築等を含む大規模リニューアルに関する「基本構想」の策定に着手します。

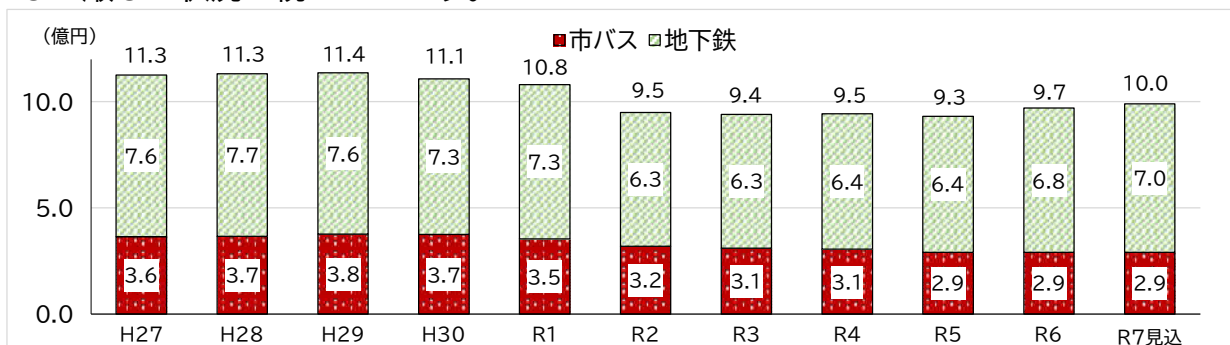
- ・地下鉄駅構内への「コトチカ」の展開
⇒四条 (H22)、烏丸御池 (H23 開業、H27 増床)、京都 (H24 開業、H28 増床)、三条京阪 (H25)、山科・丸太町 (H26)、今出川 (H27)、北大路 (H29) など
現在、簡易店舗を合わせて12駅に47店舗を展開(R8.4月現在)
- ・その他、自動販売機、コインロッカー、A T M等の利便施設を設置



(2) 広告料収入の推移

令和2年度以降、コロナ禍で事業者の広告宣伝費や交通広告の低迷により、交通局の広告収入も大幅に減少していましたが、インバウンドも含めたお客様数の増加に加え、令和7年度には京都駅ホーム階へ56面のデジタルサイネージの設置や広告代理店と連携した販売促進など増収に向けた取組の結果、令和7年度決算では前年度から増加して10.0億円(前年度比+30百万円)となる見込みです。

しかしながら、コロナ禍前の令和元年度比較では約▲8%となっており、依然として厳しい状況が続いています。



※ 百万円未満を四捨五入しているため、合計の数値が一致しない場合があります。

5 職員数（令和8年4月1日現在）

（人）

区分	企画総務部	自動車部	高速鉄道部	合計
公営企業管理者	1			1
局長級	2			2
部長級	4 (1)	3	1	8 (1)
課長級	10 (2)	16 (1)	14	40 (3)
係長級	31 (3)	45 (1)	45 (2)	121 (6)
事務・技術職員等	112 (43)	167 (9)	341 (18)	620 (70)
運転士・車掌	28 (1)	923 (36)	202 (16)	1,153 (53)
合計	188 (50)	1,154 (47)	603 (36)	1,945 (133)

注1 職員数は再任用職員及び会計年度任用職員を含む人数です。

注2 括弧内は内数で女性職員の人数です。

注3 「公営企業管理者」及び「局長級」は企画総務部の職員数として「合計」欄に計上しています。

注4 企画総務部の職員数には市バス運転士研修生等を含みます。

6 機構 (令和8年4月1日現在)

公営企業管理者交通局長

北村 信幸

次長

大八木 雅史

理事

塩見 康裕

監察監

(次長兼職)

統括監察員

(企画総務部長兼職)

安全統括管理者

(自動車部長兼職)

安全統括管理者

(電鉄部担当部長兼職)

企画総務部長

米津 好美

経営戦略担当部長

森 貴之

運賃政策担当部長

西川 正輝

営業推進担当部長

松本 守弘

企画総務課長

清水 博之

経営戦略担当課長

北尾 雅則

職員課長

平井 真一

財務課長

里中 伸行

研修所長

朝田 政宏

お客様サービス向上担当課長

北大路 真如

企画調査課長

西尾 知

市民優先価格担当課長

中本 倫生

営業推進課長

木村 麻理

担当課長

亀井 裕雄

自動車部長

児玉 直治

担当部長

橋 大輔

九条営業所長

上田 和樹

管理課長

依田 智明

運輸課長

菱田 真一郎

路線・ダイヤ担当課長

菅島 慎一郎

事業企画担当課長

飯尾 貴之

事業調整担当課長

早瀬 健一

企画係長

黒松 望都

調査係長

今野 智紀

担当係長

小寺 拓也

担当係長

田中 良征

契約係長

小林 朋弘

担当係長

畠 康之

労務係長

民秋 徹

人事係長

辻本 正毅

担当係長

森山 大輔

給与安全衛生係長

平井 聖子

主計第一係長

齋藤 誠二

主計第二係長

石田 哲朗

出納係長

上野 昌之

担当係長

(担当課長事務取扱)

担当係長

内藤 美登雄

担当係長

山本 哲也

運賃制度係長

大久保 隆洋

運賃政策係長

植田 惇一

市民優先価格係長

松尾 佳樹

担当係長

長浜 純史

担当係長

志賀 誠一郎

旅客動向分析係長

木村 真也

運賃収入係長

松田 裕之

情報化・ICT推進係長

杉森 直樹

営業企画係長

池葉須 雅之

営業推進係長

辻 真知子

広告係長

生藤 真也

事業管理係長

池澤 裕

担当係長

藤井 教路

資産活用係長

今井 敦貴

担当係長 (企画総務課副係長兼職)

管理係長

石田 大士

運輸係長

山野 順大

安全監理係長

長谷川 悟

担当係長

山崎 隆平

担当係長

内田 忠生

担当係長

松田 和己

担当係長

藤原 伸也

事業係長

和田 貴志

